

しずおかTIP-OFF(ティップ・オフ) 奨学金とは

2023年(令和5年)、特定非営利活動法人静岡市障害者協会に「障害のある人が大学等へ進学し、教育を受ける機会を支援したい」と多額の寄付が寄せられました。寄付者の願いを具体化するために企画運営委員会を設け、【しずおかTIP-OFF(ティップ・オフ)奨学金】の給付事業を新設しました。

TIP-OFF(ティップ・オフ)とは、最近盛んになってきたバスケットボールで、試合開始の時に挙げたボールを両選手が弾く動作のことで、以前はジャンプボールと呼ばれていました。基金の寄付者が障害者バスケットボールの選手であったことに感謝の想いを込めて名付けました。

【しずおかTIP-OFF奨学金】2023年～2025年の歩み

2023年5月25日(木) 特定非営利活動法人『静岡市障害者協会』総会にて、障がい者のための奨学金設立のための寄贈を受諾。奨学金設立が承認される。

5月26日(金) 奨学金設立準備会発足

10月15日(日) 第1回【しずおかTIP-OFF奨学金】募集開始～2024年1月31日(水)まで

2024年2月9日(金) 第1回奨学生選考委員会

2月27日(火) 第1回奨学生5名確定

3月20日(祝水) 第1期奨学生を励ます会開催

9月20日(金) ニュースレターNo.1発行

10月4日(金) 第2期奨学生募集開始の記者会見

2025年2月13日(木) 第2回奨学生選考委員会(36名の応募)5名を決定

3月20日(祝木) 第2期奨学生を励ます会開催

3月25日(火) 第15回企画運営委員会にて、寄付を募ることを決定



第2回奨学生選考委員会



第2期奨学生を励ます会

2026年度 しずおかTIP-OFF奨学金 募集要項

2025年10月1日募集開始

給付額:月額5万円(年60万円)返済不要

給付期間:修学最短期間

募集学生数:毎年5名以内

詳細は当奨学金ホームページをご覧ください。→



～しずおかTIP-OFF奨学金からご寄付のお願い～ 2025年秋スタート

『しずおかTIP-OFF奨学金』は篤志家の寄付を原資に2023年秋に設立しました。静岡県内に住む障がいのある若者たちへの返済不要の奨学金です。毎年5名が給付型(月額5万円)の奨学金を受けて、大学等の高等教育への進学の夢を叶えています。この事業を永く継続するためには、将来にわたる奨学金の基金の充実が不可欠です。障がいのある若者がそれぞれの【夢】に向かい、そこからかけがえのない物語が生まれていくことを願い、この奨学金を継続していくことが当団体の願いです。皆さまのお力添えをお願いいたします

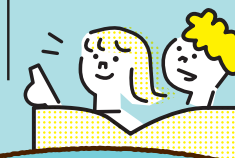


障がいのある人が学ぶための奨学金

NEWS LETTER

ニュースレター
発行:2025年10月1日

No.02
2025年



「学びの先にある事」

「心臓はどうして独りで動くのでしょうか」。あるカナダ人の若者の生涯をかけた〈問い〉でした。科学を超えた知見を求めて彼は、それから世界を旅して歩きます。終わりになき旅が教えてくれたことは〈いのちのはたらき〉の〈意味〉でした。

さて、学校にはテキストがあり、回答があり、正誤表が用意されているとしても、元々人生にはテキストなどありません。だから問い続けるほかないのです。だから学び続けるほかないのです。

高校生活を終えて、その先に4年(2年)の学びの機会があるとすれば、それは未だ識らぬ世界について生涯をかけて旅していく〈はじめの一步〉にほかなりません。「障がい」というスティグマを自らの手で剥がして新たなステージに立ってみること、TIP-OFFはそのためのささやかな契機にすぎません。地の塩たる〈いのち〉のつながりをわかち合うために。

しずおかTIP-OFF企画運営委員長 静岡福祉大学学長
増田 樹郎



「誰にも優しい 街や社会を 目指して」

TIP-OFF奨学金は、現在までに障がいがあっても学びたいという青年を10人、応援することができました。彼らが友だちを作り生き生きと大学・専門学校生活を送っている、その声をまずは聴いて下さい。

私はあるまちづくりの委員会で「これでは障がいのある人に優しくない設計だ」と見直しを主張しましたが、採用されませんでした。その委員会に、私以外は障がいの関係者はいなかったのです。建物や街は今、障がいのない人たちが作っています。構想を考える専門家や行政職員の身近に障がいのある人または友だちがいれば、もう少し血の通った基本設計になると思います。

学び舎に障がいのある学生がいて、「障害者」ではなく名前で呼び合える友だちが増えれば、障害のない学生が友だちの生活や人生を身近に感じられるようになります。今後、まちづくりに障がいのある人が参画し、障害のない人も自然に一緒に考えるようになれば、だれもが住みやすい共生社会に近づくと思います。

特定非営利活動法人 静岡市障害者協会会長
牧野 善治



「学びを重ねて 生きる世界を 切り拓きたい」

選挙前、教員時代に担任した軽度知的障害の卒業生から電話がありました。「総理大臣って選挙で決めるんじゃないの?比例代表って何?どこに行けば教えてもらえるの?」社会に出て生活も視野も広がって、「もっと知りたい。学びたい」という思いが出てきても、それを満たすための学び直しの場がありません。障害があると、どうしても自立した生活力や働く力を身に着けることが優先されがちです。それはもちろん大切なことです。でも学びを重ねて、生きる世界を切り拓きたいという思いは、障害があってもなくても変わらないことなのです。TIP-OFFでは奨学金給付という形で、その道を開きました。

私事です、選歴を前にして癌を発病したのを機に、大学通信教育に編入して福祉を学び、社会福祉士国家試験に合格しました。学びは障害や病気があっても公平です。

しずおかTIP-OFF奨学金 企画運営委員 元特別支援学校教員
前田 洋子



編集・発行
しずおかTIP-OFF奨学金企画運営委員会
本部:特定非営利活動法人静岡障害者協会
静岡市葵区城内町1-1 静岡市中央福祉センター内
事務局:しずおかTIP-OFF奨学金事務局
静岡市葵区安東1-2-3 マロンコート安東
Mail:tip.off.kikin2023@gmail.com
Tel:080-7357-4874(平日10:00～17:00 時間外は留守録対応)

発行:2025年10月1日



「専門学校での生活と将来の夢」

2025年度奨学生 長谷川心愛 19歳

学校法人鈴木学園中央調理製菓専門学校静岡校
上級調理経営学科 1年 広汎性発達障害

私は、調理師の資格を取得してから働く範囲を広げてから働きたいと思
い、専門学校へ進学することに決めました。

授業は座学と実習があります。座学では、食生活と健康や、安全と衛生、食文化概
論など様々な内容のことをしています。サービスの授業もあり、水の入れ方などお客様と
接する時の対応の仕方などを学んでいます。私は漢字の読み書きが特に苦手なので、毎日そ
の日に使った教科書を持ち帰り、振り返りをしてルビを付けたりしています。

実習では日本、中国、西洋の料理を作っています。実習は週に4回ぐらいあり班に別れ、
班員と協力しながら料理を作っています。先日は鰯の三枚おろしの試験がありました。

試験本番は手が震えて上手くできなかったのですが良い判定を受けることがで
きました。今は、前期実技試験に向けたたくさん野菜を切っています。
何mmに切るとかが決まっているので大きさ確認しながら家に包
丁を持ち帰ったりし練習をしています。

将来の夢は、自分から積極的に行動をし、周りから必要
される調理師になりたいと思っています。夢を叶えられ
るよう毎日全力で頑張ります。



「意思あるところに道は開ける」 2025年度奨学生 佐野夢果 18歳

慶應義塾大学・環境情報学部 / 環境情報学科 身体障害

この春、親元を離れて大学の寮に引っ越し、24時間の重度訪問介護を使いながらひとり暮らしを始め
ました。生活や介助体制の調整は決して簡単ではありませんが、自分の力で日々を選び取っている実感
があります。大学では法律、社会学、情報など多様な分野を学んでおり、今はその学びを通じて自分の視野
を広げているところです。

振り返れば、大学受験を乗り越えるだけでなく、合格後の介助体制づくりや住環境の調整など、目に
見えない「壁」がいくつもありました。それでも、「どうしてもこの環境で学びたい」という強い思いを支
えてくれたのは、周囲の方々の応援でした。そしてTIP-OFF奨学金も、その大きなひとつです。

いま私は、友達と出かけたり、学内外の活動に参加したりと、自分でも驚くほど世界が広がりました。
一步を踏み出すことは確かに怖いけれど、その先には「生きている」と実感できる瞬間がたくさんあり
ます。どうかこれからも、より多くの人が「自分で、自分の人生を選び取る」ことができる社会に
なりますように。そして誰もが、自分の人生の主役として、胸を張って歩んでいけますように。

大学の入口で
撮影した1枚

「しずおかTIP-OFF奨学金 奨学生からの手紙」

「学びつつ歩む」 2025年度奨学生 T.N 21歳 静岡大学教育学部3年 体幹機能障害

私が通う静岡キャンパスはキャンパス内の高低差が大いいため階段が多く、歴史ある建物のためバリアフ
リー化は進んでいません。そのため身体障害者は少なく前例がないため学務係や学部の先生方と日々話し合いを
重ねながら大学生活を送っています。

先日教育実習がありました。障害のある私として、教師として子どもたちと
どのような関わりができるか考えながら参加しました。子どもたちは障害
者と関わる機会が少ないため、却って今回の実習ではお互いに有意義な
時間を過ごせたと感じています。3年生から研究室に配属され、卒業研究
を進めていきます。支えてくださる多くの方々と一緒に、存分に学べる環
境に感謝しながら日々勉学に励んでいます。



設置された車いすで入れる昇降機

「私の大学生生活」

2024年度奨学生 D.M. 19歳 男子
肢体不自由

現在大学2年生で、心理学を専攻しています。大学では心理学の
専門的な講義に加え、心理学実験、演習などもあり、グループワー
クやレポート課題などに日々取り組んでいます。私は自分の病気のこ
とを考え、自宅から通学できる大学への入学を希望していました大学
は、完全バリアフリーの校舎で、講義を受ける上での支援も教職員の
方と相談しながら対応しています。先生も友人も優しく、学校でのさ
まざまなイベントにも積極的に参加するようになりました。奨学金
をいただいたおかげで希望の大学で充実した毎日を過ごせるこ
とに心から感謝しています。公認心理師になるという目標に
向かって今後も努力していきたいと思います。



バリアフリーの学内

「長期インターン研修をうけました」

2025年度奨学生 ピース 21歳

浜松学院大学 視力障害4級・視野障害5級

4月から7月の約3ヶ月間、大学の授業で長期インターンと
して、ホテルでの研修を行いました。以前からホテルの仕事
に憧れがありましたが、視覚に障害があることから自分に向
いているか確かめたいと考えていました。

インターンでは宿泊部と料飲部での業務を体験いたしま
した。業務の中にはお客様の評価に直接つながる項目もあり、
視覚の障害ゆえにできないことがあり、やるせない想い
をすることがありました。一方で見えにくいからこそ、それを
他の行動でどう補うかという前向きな考え方を身に付ける
ことができました。

今回のインターンでは、社会人として必要な能力だけでは
なく、視覚に障害のある人として大切なことを学ぶことがで
きました。こ
の経験を今
後、社会人
になる際に活
かしていきたい
と思います。



ホテルでの研修風景

「進路について就職か
進学かで悩むようになりました」

2024年度奨学生 T・K 37歳

筑波技術大学 鍼灸学専攻3年 視覚障害1種1級



学内写真

私は、現在筑波技術大学鍼灸学専攻の3年生です。今年からゼミ
ナールが始まり、興味のある分野についての調査に取り組んでいま
す。まずは関連する文献を読み、知識を深めることから始めましたが、
日本語の文献は限られており、海外の論文を調べる必要があります。
しかし、それらは英語で書かれているため翻訳したり、全文を取り
寄せたり、苦労も多くあります。7月からは研究デザインを作成し、
調査の方法や対象者などを丁寧に検討しているところです。

ただ、ゼミでの研究は時間や範囲が限られるため、大学
院へ進学してより深く研究したいと考えるよう
になりました。進路について就職か進学か
で悩むようになりました。

「大学生活について」

2024年度奨学生 Y 19歳 女子

広汎性発達障害

現在、大学2年生で医療の勉強をしており、臨床検査技師を目指していま
す。2年生になってから、実験や学修内容がより専門的になり、血液を使った実習
や国家試験を受けるために必要な専門科目の勉強をしています。実験では学生同士で
採血をしたり、血液に関する様々な検査法を学んでいます。授業数が多くて体力的
に大変だと感じることもありますが、自分のペースで頑張っています。

私は地元を離れて一人暮らしをしています。都会に住むようになって、人
が多いので気になる音も沢山あり、慣れるのにとても苦労してい
ます。もともと聴覚過敏があるので対処法として耳栓や
イヤーマフをするなど、解決策を考えながら勉学に
励んでいます。写真は使用している耳栓です。
大きさはイヤホンと同じくらいの物です。



使用している耳栓

